

CASBEE®-ウェルネスオフィス | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-ウェルネスオフィス2020年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-WO_2020(v1.1)

1-1 建物概要		1-2 評価パターン	
建物名称	伊丹市新庁舎整備工事	階数	地上6階地下1階
建設地	兵庫県伊丹市千僧1丁目1番他	構造	S造
用途地域	第二種住居地域・準住居地域、指定なし(法22条地域)	平均居住人員	1,445 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,210 時間/年(想定値)
建物用途	市庁舎(事務所)	評価の段階	設計段階(実施設計・施工)評価
竣工年	2025年3月 予定	評価の実施日	2021年4月23日
敷地面積	19,953 m ²	作成者	大成建設一級建築士事務所
建築面積	4,457 m ²	確認日	2021年4月23日
延床面積	21,763 m ²	確認者	大成建設一級建築士事務所



2-1 総合評価	2-2 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>Rank: S 78.6 /100</p> <p>★★★★★</p> <p>S ランク:★★★★★ > 75 A ランク:★★★★ >= 65 B+ランク:★★★★ >= 50 B-ランク:★★★ >= 40 C ランク:★★ < 40</p>	

2-3 中項目の評価(バーチャート)		
基本性能		
Qw1 健康性・快適性 Score: 3.7 	Qw2 利便性 Score: 3.6 	Qw3 安全・安心 Score: 4.8
運用管理	プログラム	参考: 知的生産性の視点に基づいた評価
Qw4 運営管理 Score: 3.9 	Qw5 プログラム Score: 5.0 	

3 設計上の配慮事項		
総合		
兵庫県伊丹市に計画された市庁舎である。基本理念である「市民の安全・安心な暮らしを支え、夢と魅力があふれる庁舎」に基づき、1) 安全・安心の庁舎、2) 多機能で誰もが利用しやすい庁舎、3) 環境に配慮した庁舎、4) 質の高い行政サービスを実現する庁舎として、防災・復旧復興拠点としてのBCPやユニバーサルデザイン、環境負荷の低減及びメンテナンス性に配慮している。		
Qw1 健康性・快適性 ・ 知的生産性向上に配慮し、働き方に即したレイアウト計画がされている。 ・ 執務者の作業環境に配慮されたオフィス什器を選定している。	Qw2 利便性 ・ ホールや執務室内等動線の途中に打合せスペースを設け、会話を誘発するような空間を設けている。 ・ 内容に応じた複数の形式の打合せスペースを計画している。	Qw3 安全・安心 ・ 建築基準法の1.5倍以上の耐震性能を有している。 ・ 非常用発電設備、本線予備線方式の受電設備の採用等。 ・ 監視カメラの設置や入退管理システムの整備。
Qw4 運営管理 ・ 防汚性に配慮した材料の使用、外部に露出する金属への防錆対策採用等。 ・ 主要なフロア各階にAEDを設置する計画としている。 ・ BCPを作成し、定期的な運用確認・更新体制等を計画している。	Qw5 プログラム ・ 産業医等によるサポートや、独自のメンタルヘルス対策を行っている。 ・ 業務管理に関する社内インフラが整備されている。 ・ 運動部の活動への補助等、健康増進プログラムを策定している。	その他 -

スコアシート			
配慮項目		環境配慮の概要記入欄	評価点
総合評価			4.1
Qw1 健康性・快適性			3.7
1 空間・内装			4.1
1.1 レイアウトの柔軟性	1.1.1 空間の形状・自由さ		5.0
	1.1.2 荷重のゆとり		3.0
	1.1.3 設備機器の区画別運用の可変性		4.0
1.2 知的生産性を高めるワークスペース			5.0
1.3 内装計画	1.3.1 専有部の内装計画		5.0
	1.3.2 共用部の内装計画		5.0
1.4 作業環境	1.4.1 オフィス什器の機能性・選択性		3.0
	1.4.2 OA機器等の充実度		5.0
1.5 広さ			1.0
1.6 外観デザイン			5.0
2 音環境			3.5
2.1 室内騒音レベル			3.0
2.2 吸音			4.0
3 光・視環境			4.0
3.1 自然光の導入			3.0
3.2 グレア対策	3.2.1 開口部のグレア対策		4.0
	3.2.2 照明器具のグレア対策		5.0
3.3 照度			4.0
4 熱・空気環境			3.8
4.1 空調方式及び個別制御性			4.0
4.2 室温制御	4.2.1 室温		3.0
	4.2.2 外皮性能		4.0
4.3 湿度制御			4.0
4.4 換気性能	4.4.1 換気量		4.0
	4.4.2 自然換気性能		4.0
5 リフレッシュ			3.7
5.1 オフィスからの眺望			4.0
5.2 室内の植栽・自然とのつながり			2.0
5.3 室外(敷地内)の植栽・自然とのつながり			5.0
5.4 トイレの充足性・機能性			5.0
5.5 給排水設備の設置自由度			3.0
5.6 リフレッシュスペース			2.0
5.7 食事のための空間			4.0
5.8 分煙対応、禁煙対応			5.0
6 運動			3.5
6.1 運動促進・支援機能			4.0
6.2 階段の位置・アクセス表示			3.0
Qw2 利便性			3.6
1 移動空間・コミュニケーション			4.2
1.1 動線における出会いの場の創出			4.0
1.2 EV利用の快適性			4.0
1.3 バリアフリー法への対応			4.0
1.4 打ち合わせスペース			5.0
2 情報通信			3.0
2.1 高度情報通信インフラ			3.0

Qw3 安全・安心性		4.8
1 災害対応		5.0
1.1 耐震性	1.1.1 躯体の耐震性能	5.0
	1.1.2 免振・制振・制震性能	5.0
	1.1.3 設備の信頼性	5.0
1.2 災害時エネルギー供給		5.0
2 有害物質対策		4.5
2.1 化学汚染物質		4.0
2.2 有害物質を含まない材料の使用		5.0
2.3 有害物質の既存不適格対応	2.3.1 アスベスト、PCB対応	-
	2.3.3 土壌汚染等対応	-
3 水質安全性		5.0
3.1 水質安全性		5.0
4 セキュリティ		5.0
4.1 セキュリティ設備		5.0
Qw4 運営管理		3.9
1 維持管理計画		4.5
1.1 維持管理に配慮した設計		4.0
1.2 維持管理用機能の確保		4.0
1.3 維持保全計画		5.0
1.4 維持管理の状況	1.4.1 定期調査・検査報告書	-
	1.4.2 維持管理レベル	-
1.5 中長期保全計画の有無と実行性		5.0
2 満足度調査		3.0
2.1 満足度調査の定期的実施等		3.0
3 災害時対応		4.3
3.1 BCPの有無		5.0
3.2 消防訓練の実施		3.0
3.3 AEDの設置		5.0
Qw5 プログラム		5.0
1 メンタルヘルス対策、医療サービス		5.0
2 社内情報共有インフラ		5.0
3 健康増進プログラム		5.0